



護法

14
2478
246



門 14
號 2478
卷 246



護法

是早月ハ本山三熊野新客僧カ之儀。我以爲松嶋
以ハ此三ノ儀一有少クハ御願法後ハ爲小
本宮澄滅殿ハ通夜申テ一ハモ。わ〜とに靈
夢カシテ此ノ法奥ハ中ノハ云傳カシ一ハ陸
奥カシテ此ノ里ハハ倉カシテハ老女カシテ一ハ

巫女の... 汲首... 今年... 何か... 水... 柳... 急... 旅衣...

急... 何事... 柳... 旅衣...

尸方事乃世 暫^レ所^レ法^レ入^レま^レう^レ成^レ了
ゆ^レと^レ於^レ出^レて^レん^レう^レに^レ老^レ女^レの^レ世^レ是^レ小^レ三^レ慈^レ珍
あ^レる^レの^レ世^レ山^レ伏^レる^レの^レ世^レの^レ世^レ目^レく^レ能^レり^レと^レ死
ま^レと^レ信^レじ^レた^レら^レ ^{ミテ} 荒^レれ^レた^レい^レち^レに^レや^レこ^レま^レこ^レと
ゆ^レら^レる^レ ^ツ ^{ミテ} ^{ミテ} 二^レま^レく^レの^レ出^レ世^レ一 所^レ然^レ野^レの^レ世^レ
客^レ傷^レい^レつ^レま^レこ^レ入^レこ^レ ^ワ ^ミ 小^レの^レ何^レと^レ身^レん

卒^レ忽^レあ^レれ^レ独^レる^レ思^レと^レう^レん^レ世^レの^レ世^レ受^レ相^レれ^レと^レう^レと
申^レら^レむ^レた^レあ^レて^レん^レ世^レと^レ我^レい^レた^レ世^レ寫^レる^レ世^レは^レと
一^レ乃^レ志^レ一^レ有^レり^レま^レも^レ 申^レ賜^レを^レ又^レ為^レる^レ小^レ平^レ宣^レ道^レ成
殿^レ小^レ洞^レ夜^レ申^レて^レん^レの^レゆ^レく^レ小^レ洞^レ並^レま^レと^レ象
て^レは^レ汝^レ奥^レへ^レり^レい^レま^レ得^レと^レ一^レ。 陰^レ奥^レも^レや^レり^レ世^レ
甲^レふ^レて^レか^レう^レに^レ世^レ女^レま^レと^レく^レ本^レ不^レく^レと^レ一^レ巫^レあ^レり^レ。

かまらうへいかな成一時一年まうしきうた今
二年おひはまこちふはまの事業か
ゆうく社思の成どの狂小あふとあ
にふ家てをいおはあふかとの成にまの
るいあわた。おあう。目はまはまのあくま
おあまはまのあう。有り。大宋くじいを

年一りあむ火の橋露の命入かまのあ
あおふたれむ事あ有終らよ。大眼の中あ
あままらあまをそれあてたか。あはあ
何いあかまう。何い実いあ
可い道い。一年じやう。あふん。あ
年一。我い。何い道い。年

此の山乃有收何となく本宮に似る珍物程ふ
是より本言隆減敵とらぬ能く又あはれ
えし乃はのしう新宮とまひ美功能又
三ふ小波又落ととも右にまひとく権理
中なる一まひかられやいもさうつらぬ又失
勅は及神而國家のふとく其教有也と云

元々當社乃中朱歴とまはれんともさう
空をり 此とハ摩伽陀國のあつて即
代は活め國とまはる大世中海方して美民
無縁の形影もあて日月は波とらるる也
くやまは申せむ程も初老新神緒縁あま孫
えらぬなりぬ人あまはまはるるはるぬて

いかに神也成終ふ所なきの國やむる所
郡に宮ありて行人征馬のや中城とて心持し
とくゆる道と成しより四海を静むる八天
唐の宮ありて中に不宮澄城殿と申る
本地赤泥をまき板を十方界に赤泥して
いかに遍くゆらひの教ありてやほとむる

北に陸奥の東に國の奥より南のまてに
歩むる所の終り西方の臺よりかたの陸奥むむ
大悲擁護の聖徳の徳野山入山飲水をいかに
靈験を双の神明いかに川東河内入
色に方宗の奉れ授る子と珠の坂既しむ
いかに北陸奥の石より姑女かくとるうけ

三十九
不思議やか若女うけおれ及いそめりふまき
人若虚空たのりそり若女かへとかくおれ
ゆり人ゆくまゆゆとそ事もおろや権現
ゆはういひおろ喜神よ 北 有経也きえあり
成神さうかり 神さうひんさうあり
今神入海とさるる 上 まりのおれだうに

三十一
もしいやりおれせんをらとあり 北 供又下向の道
半は 北 國いし 北 とも 北 なる 北 城 北 あり 北 ん 北 あり
の 北 思 北 魔 北 を 北 こ 北 死 北 ぶ 北 とい 北 け 北 違 北 ひ 北 り 北 こと 北 あり 北 せん
神 北 あり 北 上 北 生 北 たり 北 國 北 高 北 女 北 出 北 あり 北 と 北 申 北 せ 北 こと 北 大
神 北 あり 北 とも 北 指 北 あり 北 け 北 所 北 あり 北 の 北 は 北 あり 北 こと 北 あり
大日如文字あり 北 大日如文字あり 北 大日如文字あり 北 大日如文字あり



